

ロジャーズの実際の応答

ロジャーズ：もっとくわしくお話しただけませんか。なぜ、どんなふうに、ほんとうにもう死んでしまったほうが良いと思うほど、追いつめられてしまうのか。

ブライアン：ええ。その感覚をもっと正確に言葉にできるかどうかわかりませんが。それは、とても強烈な痛々しい重さで、まるで斧が腹部全体を推しているというか、押しつけているような感じなんです。だいたいどの場所かもわかるんですけど。それが急激にぼくを圧迫してくるような感じなんです。そしてそれは、ぼくのダイナミックなエネルギーの源のところまで下りていってしまうので、どんな分野でどんな努力をしても、いつもそこでブロックされてしまうんです。

**ロジャーズ：何につけても力を根こそぎ奪われてしまうんですね。**

ブライアン：ええ、そうなんです。そして身体でも同じことが起きるんです。歩いていて、その悪い感じが襲ってきた時、ぼくは背中を曲げて、お腹が痛い時のような感じで歩くんです。ぼくは実際腹痛をよく起こすんですが、この時は心理的にそんな感じになってしまうんです。

**ロジャーズ：そうですか、そしてそのために、あなたは何というか、半分くらいの間人になってしまう。半分くらい力しか出せなくなってしまう。**

ブライアン：そうなんです。それはちょうど自分の中に文字通り、斧を持っているような感じなんです。僕のエネルギーの核になるところに斧があるような感じ。そのためにぼくのエネルギーは、痛々しいばかりにブロックされ、抑えこまれているんです。それは、ぼくの深いところに突き刺さっている。けれどだからこそ逆に、それから解き放たれると、深いエネルギーの流れを感じることができるわけなんです。

**ロジャーズ：いい感じの時は、ほんとうにいい感じなわけですね。**

ブライアン：ええええ、そうなんです。とってもダイナミックなんです。頭の回転も速くなるし、すべてが調子よくいきます。やることなすこと、うまくいくっていうか。

**ロジャーズ：そしてあなたは、どうすればそういうダイナミックな自己を持てる時間を増やすことができるか、それを考えている。**

いかがでしょうか。ロジャーズが、「単に相手の応答を繰り返すだけ」のカウンセリングを行っていたのではないことが、ご理解いただけたのではないのでしょうか。

出典：「カール・ロジャーズ入門自分が“自分”になるということ」 諸富祥彦 コスモス・ライブラリー